



Center for Statistics and Information
Rikkyo University

■ 2023年度

活動報告書

■ CSI Activity Report

立教大学 社会情報教育研究センター

2023 年度 活動報告書

April 2023 - March 2024

CSI Activity Report



目次 Contents

1	2023 年度の主な事業活動	3
2	各部会の事業計画および事業報告	6
1)	政府統計部会	6
2)	社会調査部会	9
3)	統計教育部会	12
3	資格支援事業	17
1)	社会調査士	17
2)	統計検定	20
4	教育支援事業	21
1)	正課科目の開発・提供	21
2)	各種コンテンツの開発および改修	23
5	研究支援事業	24
1)	調査研究コンサルティング	24
2)	対外連携活動	25
6	出版物	26
7	組織図および構成メンバー	27

1 2023 年度の主な事業活動

2023 年

4 月

- 5 日 社会調査士資格申請書類発送
- 17 日 社会調査データアーカイブ RUDA 調査データ公開（調査番号 0082）（社会調査部会）
- 19 日 第 1 回 CSI センター運営会議
- 27 日 福島県田村市打合わせ（政府統計部会）

5 月

- 5 日 社会調査士実習科目概要報告書・成果物・履修要項発送
- 9 日 統計検定ガイダンス（統計教育部会）
- 17 日 第 2 回 CSI センター運営会議
- 17 日 第 1 回 CSI センター連絡会議
- 25 日 福島県田村市打合わせ（政府統計部会）
- 30 日 IASSIST 出席（～6 月 2 日）（出席者：池田助教、御手洗助教）

6 月

- 1 日 社会調査士（キャンディデイト）資格・指定科目証明書申請受付（～6 月 14 日）
- 20 日 統計活用セミナー「Google colabory を用いた e-stat API の使い方」（講師：小野原助教）
- 22 日 第 1 回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの使い方・探し方 データアーカイブ活用法」（講師：御手洗助教）
- 28 日 コンサルティング対応（コミュニティ福祉学部教員）（渡辺助教）

7 月

- 1 日 ニュースレター第 11 号発行
- 4 日 立教女学院高等学校にて「データの利活用」に関する講義（講師：山口教授）
- 5 日 第 3 回 CSI センター運営会議
- 5 日 第 2 回 CSI センター連絡会議
- 24 日 立教女学院高等学校にて「データの利活用」に関する講義（講師：山口教授）

8月

25日 社会調査データアーカイブ RUDA 調査データ公開（調査番号 0078、0079）（社会調査部会）

9月

4日 CSI 統計活用セミナー「英語でデータ分析を学ぶ」プレセミナー①（講師：櫻本准教授）
5日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科大学院生）（池田助教）
6日 社会調査データアーカイブ RUDA 調査データ公開（調査番号 0083、0084）（社会調査部会）
18日 CSI 統計活用セミナー「英語でデータ分析を学ぶ」プレセミナー②（講師：櫻本准教授）
25日 社会調査士（キャンディデイト）および9月卒業生 指定科目証明書申請受付（～10月13日）

10月

2日 CSI 統計活用セミナー「英語でデータ分析を学ぶ」セミナー①（講師：デンマーク統計局 Michael Osterwald-Lenum 氏）
9日 CSI 統計活用セミナー「英語でデータ分析を学ぶ」セミナー②（講師：デンマーク統計局 Michael Osterwald-Lenum 氏）
15日 統計調査士対策セミナー第1回・第2回オンデマンド配信開始（～2023年3月31日）（政府統計部会）
16日 CSI 統計活用セミナー「英語でデータ分析を学ぶ」セミナー③（講師：デンマーク統計局 Michael Osterwald-Lenum 氏）
18日 第4回 CSI センター運営会議
19日 第2回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析：クロス集計と相関分析」（講師：御手洗助教）
23日 CSI 統計活用セミナー「英語でデータ分析を学ぶ」セミナー④（講師：デンマーク統計局 Michael Osterwald-Lenum 氏）
28日 第13回経済統計研究会「Value-added (at market prices) for a given set of locations, and for a given set of residents. From SNA1968 to SNA1993 to SNA2008」（講師：デンマーク統計局 Michael Osterwald-Lenum 氏）

11月

8日 第5回 CSI センター運営会議
8日 第3回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析：回帰分析・二次分析」（講師：池田助教）
9日 社会調査データアーカイブ RUDA 調査データ公開（調査番号 0085）（社会調査部会）
21日 コンサルティング対応（ビジネスデザイン研究科大学院生）（池田助教）
24日 機械学習セミナー（入門編）（講師：東洋学園大学専任講師 門田実氏）

12月

1日 機械学習セミナー（決定木編）（講師：東洋学園大学専任講師 門田実氏）

- 7日 第6回 CSI センター運営会議
- 7日 第3回 CSI センター連絡会議
- 9日 第13回社会調査フォーラム「Rで学ぶ系列分析入門」(講師:福岡県立大学専任講師 黒川すみれ氏)
- 20日 ニュースレター第12号発行

2024 年

1 月

- 10日 第7回 CSI センター運営会議
- 16日 公開講演会「ChatGPT の活用とデータサイエンス教育」(主催:経営学部、講師:カリフォルニア州立工科大学教授 Jimmy Doi 氏)
- 21日 コンサルティング対応(異文化コミュニケーション研究科院生)(池田助教)

2 月

- 29日 社会調査士資格 指定科目証明書申請受付(～3月18日)
- 29日 研究紀要『社会と統計』第10号発行

3 月

- 2日 第14回統計研究会「ウェルビーイングの統計的把握」(講師:内閣府経済社会総合研究所上席主任研究官、総務省統計委員会担当室長 萩野寛氏)
- 15日 第8回 CSI センター運営会議
- 15日 第4回 CSI センター連絡会議
- 19日 社会調査士資格 指定科目証明書発行日
- 20日 社会調査士資格 申請書類提出日(～3月27日)
- 25日 田村市エコノミックガーデニングシンポジウム(講師:菊地名誉教授・櫻本准教授)

2 各部会の事業計画および事業報告

1) 政府統計部会

2024 年度事業計画

(1) 統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進

2019 年に施行された改正統計法に合わせ、統計検定統計調査士対策本に位置付けられる「日本の公的統計・統計調査」、「統計調査士得点源問題集」、「公的統計の二次的利用に制度に関する学習コンテンツ」を適時改訂し、整備する。

(2) 統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進

2022 年から 2023 年にかけて①～⑤を 3 つの授業の半オンデマンドコンテンツとして整理した。2024 年度半期はすでに作成したコンテンツの改修、メンテナンスを行う。

①公的統計学習コンテンツ Official Statistics Contents for Multi-user (すたまる)

②公的統計総合学習コンテンツ Official Statistics Navigator (すたなび)

③将来人口推計コンテンツ Future Population Projection Contents (ポコ)

④経済波及効果分析コンテンツ Repercussion Effect Analysis Contents (リコ)

⑤SPSS を利用したマイクロ統計分析コンテンツ

(3) 地域における統計分析と紹介

2024 年度の受託予定はない。随時受託調査は受け付けている。これまでの受託結果の成果を論文としてまとめるといった方向性を考えている。

(4) CSI 統計研究会・懇話会、講習会・講演会の開催

調査統計および加工統計の作成機関の担当者を招き、統計研究会を開催する。経済統計研究会の運用の依頼を受けて不定期で実施している。また、統計利用とも関わる講習会・講演会を開催する。2019 年度に公的統計の二次的利用制度及び統計 GIS の利用が拡充されたことを受けて、これらの利用促進に重点を置く。

(5) 統計活用セミナー、統計検定受験の促進

データサイエンスの時代を迎えて多様なセミナーが求められるようになっている。部会メンバーのできることを整理し、時代に合ったセミナーを企画し、提供していく。またセミナーをオンデマンド化して、長期間利用できるようにする。

統計教育部会と連携し、学習意欲向上のため統計検定の受験への事業協力を行う。学部 1 年次に統計検定 3 級、2 年次以上で統計検定 2 級と統計調査士試験の受験を勧める。また、本学学生の統計調査士試験の合格率を高めるため、部会コンテンツを使用して学生のための支援活動を実施する。本年度も、統計調査士対策セミナーを外部にも公開するとともに、セミナーの一部をオンデマンド化する。

（６） 公的統計の二次利用制度の活用推進

統計法が改正され、データの利活用が一層促進されるようになった。いくつかの機関にサテライト機関が設けられている。これまで実施してきた取り組みとして、和歌山県のデータ利活用センター、統計作成(オープンデータも含む)実務者へのヒヤリングがある。これらの活動については継続して随時実施する。本年度も引き続き、統計法改正に合わせて推進される公的統計の二次的利用制度（27条・33条申請、匿名データ利用、オーダーメイド集計）に関する紹介に重点を置く。実際に利用を試みるとともに、利用体験を収集し紹介する。部会コンテンツを利用した二次的分析の講習会を開催するほか、統計法に基づく制度の利活用が広がっており、俯瞰するための情報収集も継続して行う。

2023 年度事業報告

（１） セミナー開催

◆CSI 統計活用セミナー

CSI 統計活用セミナーは、公的統計の利活用について学習することを目的としている。2023 年度は以下のセミナーを開催した。

講義内容：CSI 統計活用セミナー「Google colabatory を用いた e-stat API の使い方」

開催日時：6 月 20 日（火）5 限（17:10～18:50）

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8503 教室

セミナー講師：小野原 彩香（社会情報教育研究センター助教、政府統計部会）

参加人数：15 名（学部生 12 名、教職員 3 名）



講義内容：CSI 統計活用セミナー「英語でデータ分析を学ぶ」

開催日時：プレセミナー 9 月 4 日（月）・18 日（月）3 限（13:25～15:05）

セミナー 10 月 2 日（月）・9 日（月）・16 日（月）・23 日（月）4 限（15:20～17:00）

場 所：池袋キャンパス 4 号館 4408 教室

プレセミナー講師：櫻本 健（経済学部 准教授）

セミナー講師：Michael Osterwald-Lenum（立教大学 2023 年度招へい研究員、デンマーク統計局マクロモデル

課チーフアドバイザー）

参加人数：26 名（教室 20 名前後、オンライン 6 名前後・おおよその平均）

◆統計調査士対策セミナー

統計検定統計調査士試験の対策セミナーとなる本セミナーは、2023 年度は CanvasLMS 上のオンラインコンテンツとして公開した。このセミナーは、2023 年 3 月に第 3 版が発行された最新版のオリジナルテキスト『日本の公的統計・統計調査』を使用した実践的なセミナーであり、CanvasLMS にて動画の配信を行った。



（２）調査・分析の受託事業

福島県田村市の中小事業者向け全数調査の指導と分析について受託した。調査は景況調査と新型コロナ向けの事業者調査も兼ねた設計となった。調査は 2022 年に実施し、2023 年にデータの追加入力と、修正を行った。2024 年 3 月 25 日に報告会（シンポジウム）を現地で開き、報告書、データ資料などの納品物を納めた。CSI では年 1 件程度であれば自治体からの調査分析の委託を随時受託できる体制を整えている。

（３）CSI 統計研究会の開催について

経済統計研究会との共催で、統計研究会を年 2 回開催した。第 13 回は CSI 統計活用セミナーに引き続き、招へい研究員による報告があった。現在国際的に重要指標となっている GDP に関して、グローバル化を通じて生じている問題と対処について、わかりやすい報告がなされ、参加者による活発な議論が行われた。第 14 回はウェルビーイングの統計的把握のあり方について、海外の動向を交えた貴重な情報提供があった。主に統計委員会周辺の関係者やエコノミストが参加し、活発な質疑応答がなされた。

〈第 13 回統計研究会〉

テ ー マ：「Value-added (at market prices) for a given set of locations, and for a given set of residents.
From SNA1968 to SNA1993 to SNA2008」

開催日時：2023 年 10 月 28 日（土）15:00～17:00

講 師：Michael Osterwald-Lenum（立教大学 2023 年度招へい研究員、デンマーク統計局マクロモデル
課チーフアドバイザー）

使用言語：英語

参加人数：10 名

〈第 14 回統計研究会〉

テ ー マ：「ウェルビーイングの統計的把握」

開催日時：2024 年 3 月 2 日（土）15:00～18:00

講 師：萩野 覚（内閣府経済社会総合研究所上席主任研究官、総務省統計委員会担当室長）

対 象： 本学教員、学内外の研究者、各省庁関係者

共 催： 経済統計研究会

参加人数：16 名（対面 10 名、オンライン 6 名）

（４）2023 年度事業を振り返って

受託事業とオンデマンドコンテンツ化を同時に行なった。助教 2 名も 2 年目に入り、大きな混乱は見られなかった。次年度は受託事業がないと予想されている為、授業・セミナーのオンデマンドコンテンツ化に注力できる。

2) 社会調査部会

2024 年度事業計画

(1) 社会調査データアーカイブ (RUDA) プロジェクト

1) データ整備・提供業務

- 2023 年度までに、寄託されたデータセットのうち 74 データをクリーニングし、公開しており、2024 年度では、さらに 3 データセットをクリーニングする。
- 立教大学の社会調査士科目 G (社会調査を実際に経験し学習する科目) で収集された、量的な社会調査データを対象に RUDA への寄託伺いを行い、寄託されたデータを収集し、公開する。

2) RUDA データの利用促進に向けた取り組み

- 社会調査活用セミナーの開催：RUDA データの教育・研究利用をさらに促進するため、データの利活用に関するセミナーを開催する。将来的にはアーカイブ探索に関する Web コンテンツの作成や、データ利用初心者でも活用しやすいようサービスの整理を行い、より広範な RUDA データの利用に向けた基盤構築につなげることを想定している。
- RUDA を中心としたデータアーカイブの利活用をテーマとするセミナーを年に 1 回行う。とりわけ、2024 年度は JAIRO Cloud 移行に伴い改修された RUDA の利活用に関する周知を行う。
- RUDA データを利用した二次分析のやり方に関するセミナーを年に 2 回行う。
- 社会調査を利用した研究について情報収集を行い、既存データ利用の可能性について見識を深め、RUDA の広報に還元する。その一環として、先進的な研究発表が行われる国際学会に参加する。

3) アーカイブ事業の協力体制

- DDI を基盤として、国内外アーカイブとの連携事業を行い、より広範な二次利用環境の整備、そしてアーカイブ事業に関わる研究協力基盤の構築を行う。具体的には以下の 2 つの事業を行う。
 - 相互検索システムの構築：RUDA と国内外アーカイブでそれぞれが所有しているデータを一元的に検索することができるシステムを構築し、網羅的・効率的なデータ検索環境の整備を行う。
 - 研究協力基盤の構築：データアーカイブ運営の在り方をテーマとする研究基盤を国内外アーカイブとの共同のもと整備し、国内アーカイブ水準の改善に向けた研究発信を行う。そのために、先進的な研究発表が行われる国際会議にて海外アーカイブ事情を確認し、改善案を模索する。

(2) 社会調査士資格関連事業

1) 社会調査士・専門社会調査士科目申請の支援

組織会員として加入している社会調査協会に対し、学内における一元的な連絡責任者として、学部・研究科内の学内連絡責任者と連携して社会調査士・専門社会調査士カリキュラムの科目申請事務を行う。また、学部・研究科が設置する資格対応科目の認定申請に関する相談受付などの諸支援を行う。

2) 社会調査士・専門社会調査士取得申請の支援

教務事務センターと連携して学部学生・大学院学生 of 社会調査士・専門社会調査士資格取得支援体制を整備し、取得希望者に対する 相談・申請の受付業務を行うとともに、資格申請に関する学内広報を行う。ま

た、教務事務センターと連携して 2012 年度より導入した指定科目証明書発行システムの運用を通じ、資格取得相談から申請までの一貫した窓口業務を提供する。

（３）その他対外連携事業

- 1) ICPSR（Interuniversity Consortium for Political and Social Research）の国内利用協議会を通じた会員機関として、その所蔵データ利用の学内広報につとめる。
- 2) ICPSR 本部が実施するサマープログラム（セミナー）、および ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報につとめる。

（４）社会調査フォーラムの開催

統計的社会調査の理論と方法に関する実践例の紹介を企図とするセミナー（社会調査フォーラム）を、1 回以上開催する。具体的には、外部から社会調査の経験がある研究者を招へいし、社会調査の実際をテーマとする研究会の開催を通して、その理論や方法を広く学ぶ機会を設ける。または、社会調査データを活用している実務家をお招きし、活用に至った経緯やその実践と意義に関する講演会を開催する。

（５）社会調査に関わるコンサルティング事業

- 1) 学内研究者と大学院学生に対し、社会調査の企画・設計に関する相談、および統計分析に関する相談を受け付ける。
- 2) 学内部局に対して、社会調査の企画・設計の諸方法に関する相談、および統計分析に関する相談を受け付ける。

2023 年度事業報告

（１）社会調査データアーカイブ（RUDA）プロジェクト

立教大学社会調査データアーカイブ（Rikkyo University Data Archive: RUDA）は、研究目的や教育目的の二次分析のため、以下のとおりデータセットを公開している。2023 年度は 6 データセットを新たに公開した。現在、累計 75 のデータセットが公開されている。

〈2023 年度 公開データセット：6 件〉

公開日	調査名
2023 年 4 月 17 日	新型コロナウイルス感染症流行下における人々の意識と行動に関する調査（2021）
2023 年 8 月 25 日	まちづくりと居留意識に関する調査
2023 年 8 月 25 日	ライフスタイルと社会意識に関するアンケート調査
2023 年 9 月 6 日	若年者の教育経験に関する調査
2023 年 9 月 6 日	新型コロナウイルス感染症流行下における人々の意識と行動に関する調査（2022）
2023 年 11 月 9 日	他者との関係形成や社会認識に関する調査

(2) セミナー・各種イベント開催

2023 年度は以下のセミナーを開催した。

◆CSI 社会調査データ活用セミナー

〈第 1 回〉

テ ー マ：社会調査データの使い方・探し方～データアーカイブ活用法～

開催日時：2023 年 6 月 22 日（木） 17：30～19：00

場 所：Zoom オンライン

講 師：御手洗 由佳（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：16 名（学内）

〈第 2 回〉

テ ー マ：社会調査データの解析 1 ～クロス集計と相関係数～

開催日時：2023 年 10 月 19 日（木） 17：30～19：00

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：御手洗 由佳（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：12 名（学内）

〈第 3 回〉

テ ー マ：社会調査データの解析 2 ～回帰分析・二次分析～

開催日時：2023 年 11 月 8 日（水） 17：30～19：00

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：池田 岳大（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：7 名（学内）

◆第 12 回社会調査フォーラム

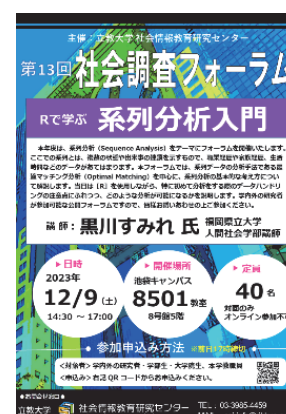
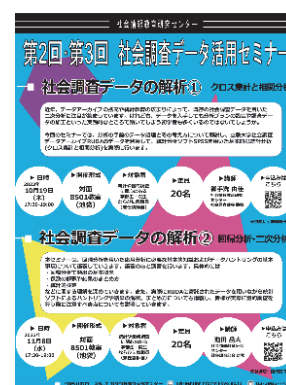
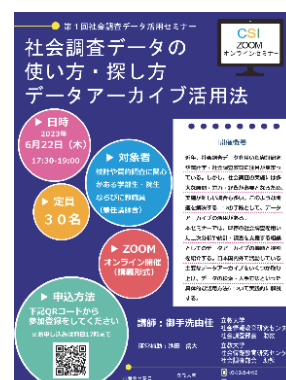
テ ー マ：R で学ぶ系列分析入門

開催日時：2023 年 12 月 9 日（土） 15：00～17：00

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：黒川 すみれ（福岡県立大学 講師）

参加人数：17 名（学外 14 名、学内 3 名）



(3) 2023 年度事業を振り返って

今年度は上記の通常業務に加えて、来年度の RUDA システム移行にあたって、関係者や国立情報学研究所 (NII) 朝岡誠先生との協議を重ねた。また、前年度に引き続き、今年度も国内セミナーや国際学会 (IASSIST) への参加等を通じて、国内外機関のデータアーカイブの動向等を知る機会を得た。後者に関しては、『社会と統計』第 10 号に資料論文として掲載をし、情報発信にも努めた。

来年度は新たな組織体制や RUDA の新システムでの公開等も控えており、より効率的かつ分かりやすい運営を行いたい。

3) 統計教育部会

2024 年度事業計画

(1) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営

『社会調査入門』の管理・運営

『データ分析入門』の管理・運営

『社会調査の技法』の管理・運営

『データの科学』の管理・運営

『多変量解析入門』の管理・運営

『Introduction to Statistics 1』の管理・運営

『Introduction to Statistics 2』の管理・運営

『Introduction to the Social Survey』の管理・運営

『Introduction to Multivariate Analysis』の管理・運営

これら 9 科目の詳細は「オンデマンド授業」をご参照ください。

(2) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業用教材の評価と検証

受講生の学習履歴データ、モニター学生からのコメントなどをもとに、オンデマンド授業用教材を評価・検証する。

(3) データサイエンス副専攻の支援

データサイエンス副専攻の支援を行う。

(4) CSI 統計セミナー、統計検定対策セミナーの開催

統計検定合格水準の統計学に関する知識と活用力を身に着けるためのセミナー、および統計検定の受験ガイダンスを実施する。

(5) 統計学習のための教材およびプログラムの改修および開発

社会から求められる人材育成のための教育プログラムや教材を開発・改修する。

(6) 統計教育フォーラム・公開講演会の開催

社会調査や統計関係の科目担当者向けのファカルティ・ディベロップメント (FD) を行う場としての統計教育フォーラムや統計教育の開発や推進のための公開講演会の開催

(7) 学外統計教育関連行事への共催や後援

スポーツデータ解析コンペティションをはじめとする学内外での統計教育関連の事業への関与を通じ、社会的貢献を行う。

(8) 高大連携プログラムの開催実施

統計やデータ活用に課する高大連携プログラムの開発と実施を行う。

2023 年度事業報告

(1) オンデマンド授業・セミナー等について

◆全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営

受講者数は下記の通り、その他の詳細は別途記載している。

1. 『社会調査入門』 受講者数：180 名
2. 『社会調査の技法』 受講者数：206 名
3. 『データ分析入門』 受講者数：217 名
4. 『データの科学』 受講者数：204 名
5. 『多変量解析入門』 受講者数：79 名
6. 『Introduction to Statistics 1』 受講者数：200 名
7. 『Introduction to Statistics 2』 受講者数：206 名
8. 『Introduction to the social survey』 受講者数：76 名
9. 『Introduction to Multivariate Analysis』 受講者数：34 名



◆CSI 統計分析セミナー

CSI 統計分析セミナーは Blackboard および Canvas LMS を通じて配信するオンデマンド型のセミナーである。同セミナーの Blackboard 上での公開は 2023 年度で終了し、2024 年度からは Canvas LMS のセルフラーニング上での公開に一本化される。既存の SPSS 統計解析（Basic コース／SEM コース）および R 統計解析（基本コース／多変量解析コース）に加え、2018 年度からは統計検定対策セミナーコースの配信を行っている。

【現在公開中のコース】

1. SPSS 統計解析（Basic コース）

統計解析ソフト SPSS に関する基本動作を習得し、簡単な統計処理を行うための技術を身に着ける。また同時に、関連する統計学の基本的な事項についても学習する。基本統計量に加え、質的変数、量的変数に焦点を絞り、これらの変数を適切に集計、解析できるレベルの操作を行う。

講師：大橋 洸太郎（元 社会情報教育研究センター 助教）

2023 年度登録者数：67 名

2. SPSS 統計解析（SEM コース）

統計解析ソフト Amos に関する基本動作を習得し、SEM によるモデル構築と分析結果の確認を行うための技術を身に着ける。また同時に、一般的によく用いられるモデルの紹介を行い、それらの分析を通してモデル構築や評価に習熟する。

講師：大橋 洸太郎（元 社会情報教育研究センター 助教）

2023 年度登録者数：23 名

3. R 統計解析（基本操作コース 1）

統計解析環境 R の動作に関して、R の起動からデータの保存、終了の仕方などの基本操作に習熟する。また、スクリプトの書き方を通じて、簡単なデータハンドリングの技術を身に着ける。

講 師：大橋 洸太郎

（元 社会情報教育研究センター 助教）

2023 年度登録者数：79 名

4. R 統計解析（基本操作コース 2）

- ・ R を使って 1 変数の集計ができるようになる。
- ・ R を使って 2 つの質的変数の関係性を把握する。
- ・ R を使って 2 つの量的変数の関係性を把握する。

講 師：大橋 洸太郎

（元 社会情報教育研究センター 助教）

2023 年度登録者数：28 名

5. R 統計解析（多変量解析コース 1）

第 1 回 R/R Studio の使い方

第 2 回 重回帰分析

第 3 回 分散分析（1, 2 要因参加者間実験）

講 師：大橋 洸太郎

（元 社会情報教育研究センター 助教）

2023 年度登録者数：39 名

6. R 統計解析（多変量解析コース 2）

第 1 回 R/R Studio で因子分析

第 2 回 R/R Studio でクラスター分析

第 3 回 これまでのまとめ（春学期/秋学期）

講 師：大橋 洸太郎

（元 社会情報教育研究センター 助教）

2023 年度登録者数：30 名

7. 統計検定対策セミナー

●オリジナルテキスト

●動画（以下 18 コンテンツ）

- ・ 1 変数データの要約 ・ 2 変数データの要約 ・ 離散型確率変数 ・ 様々な離散型確率変数 ・ 連続型確率変数
- ・ 様々な連続型確率変数 ・ 推定 ・ 母平均の区間推定 ・ 母比率の区間推定 ・ 母分散の区間推定
- ・ 仮説検定とは、母比率の検定 ・ 母平均の検定 ・ 母平均の差の検定 ・ 適合度検定、独立性の検定 ・ 分散分析
- ・ 単回帰分析 ・ 重回帰分析 ・ 数表の読取り方

講 師：山口 誠一（前 社会情報教育研究センター 助教）

2023 年度登録者数：59 名

◆統計検定ガイダンス・受験対策セミナー

社会情報教育研究センターでは、統計学習のサポートとして、対面での統計検定ガイダンスや受験対策セミナーを実施している。2023 年度は対面での受験対策セミナーは行わず、ガイダンスは春学期（5 月 9 日）にのみ行った。Blackboard および Canvas LMS における CSI 統計検定対策セミナーは、統計検定 2 級および 3 級の試験対策として、テキスト及び動画を改修して配信した。

◆高校生向け統計教育セミナー

2023 年 7 月 4 日、7 月 24 日に立教女学院高等学校 3 年生向けのプログラムを実施した。

◆機械学習セミナー（入門編）

テ ー マ：機械学習セミナー（入門編）
開催日時：2023 年 11 月 24 日（金） 17：10～18：50
場 所：Zoom オンライン
講 師：門田 実（東洋学園大学 専任講師）
参加人数：32 名

◆機械学習セミナー（決定木編）

テ ー マ：機械学習セミナー（決定木編）
開催日時：2023 年 12 月 1 日（金） 17：10～18：50
場 所：Zoom オンライン
講 師：門田 実（東洋学園大学 専任講師）
参加人数：20 名

主催：立教大学 社会情報教育研究センター

MACHINE LEARNING

機械学習セミナー（入門編） 11月24日（金）

機械学習とは何かについて説明すると「図解分析」「ロジスティック回帰分析」「サポートベクターマシン」「ニューラルネットワーク（深層学習）」「ニューラルネットワーク（浅層学習）」「決定木（分類）」「回帰分析（予測）」「ナイーブベイズ」など、多くの項目が上げられます。しかし、それらの概念を学ぶには、まず、機械学習の基礎となる統計学、線形代数、微積分などの数学的知識が必要です。本セミナーでは、機械学習の基礎となる統計学、線形代数、微積分などの数学的知識を、初心者にもわかりやすく説明します。また、機械学習の応用分野として、画像認識、自然言語処理、推薦システムなど、最新の技術についても紹介します。

機械学習セミナー（決定木編） 12月1日（金）

決定木は、機械学習の中でも、最もわかりやすいモデルの一つです。本セミナーでは、決定木の基礎となる統計学、線形代数、微積分などの数学的知識を、初心者にもわかりやすく説明します。また、決定木の応用分野として、画像認識、自然言語処理、推薦システムなど、最新の技術についても紹介します。

●講師
門田 実 氏
東洋学園大学
データサイエンス・マーケティング学部
専任講師

●開催形式
ZOOM
オンライン
17：10～18：50

●対象者
本学学部生
大学院生
教職員

●下記QRから
お申込みください

立教大学 社会情報教育研究センター
TEL：03-3985-4459 Mail：csi-info@rikkyo.ac.jp

（2） 共催・後援セミナー等

◆各種コンペティション

統計教育部会では、各種コンペティションへの参加を希望する、立教大学の学生を支援する体制を整えている。2023 年度は、CSI のホームページ上で、「統計データ分析コンペティション 2023」や「第 7 回和歌山県データ利活用コンペティション」、「マーケティング分析コンテスト 2023」等のコンペティションについての告知を行ったが、学生からの参加申し込みは寄せられなかった。

◆職員向け情報リテラシー研修

昨年度に引き続き 2023 年度も、教務部より依頼を受け、本学職員に向けた統計研修を行った。

開催日時：2023 年 8 月 28 日（月）14：00～17：00

主 催：本学人事課

場 所：1204 教室

講 師：山口 和範（経営学部 教授）

テ ー マ：今必要とされる統計的思考力

対 象：本学職員

◆ChatGPT の活用とデータサイエンス教育

テ ー マ：データサイエンス教育における生成 AI の活用

1 部：講演「生成 AI のデータサイエンス教育での活用」講師 Jimmy Doi 教授

2 部：パネルディスカッション「データサイエンス教育での生成 AI への期待と留意点」

主 催：立教大学経営学部

共 催：NEC ネットエスアイ株式会社、社会情報教育研究センター

開催日時：2024 年 1 月 16 日（火） 17：30～19：30

場 所：Zoom による配信およびマキムホール 10 階会議室

対 象：学生、教職員、一般

参加人数：53 名

（３）データサイエンス副専攻支援

データサイエンス副専攻に関する案内を掲載した NEWS LETTER（Vol.11、Vol.12）を発行した。

（４）2023 年度事業を振り返って

2023 年度は Blackboard を併用しつつ、メインの授業支援システムは Canvas LMS へと移行した。メディアセンターや教育研究コーディネーターのサポートもあり、オンデマンド授業やセミナー等のコンテンツをスムーズに移行することができた。2024 年度から始まる Canvas LMS への一本化に向けて、好スタートを切ることができたといえよう。また 2023 年度は、「機械学習入門セミナー」や「ChatGPT の活用とデータサイエンス教育」を行った。今後も学内外との連携の下、統計教育部会での統計教育の質保証と一層の充実のための活動を継続する。

3 資格支援事業

1) 社会調査士

「社会調査士」と「専門社会調査士」は、いずれも一般社団法人社会調査協会が認定するものであり、社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的として作られた資格である。

社会情報教育研究センターでは、社会調査部会の助教が資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科すべての連絡責任者となり、学生の資格取得や各学部・学科の認定科目申請の支援を行うなど、立教大学内の社会調査士資格に関する窓口業務を担っている。

◇社会調査士・専門社会調査士 資格制度参加学部・研究科

- ・全学共通カリキュラム運営センター（オンデマンド授業）
- ・社会学部 全学科
- ・経済学部 全学科
- ・経営学部 全学科
- ・コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
- ・現代心理学部 心理学科
- ・大学院 社会学研究科
- ・大学院 コミュニティ福祉学研究科

〈資格申請〉

2023 年度の社会調査士・社会調査士（キャンディデイト）・専門社会調査士の資格申請・資格取得者数は以下の通りである。

社会調査士 資格申請者数：87 名（2023 年 3 月申請分）

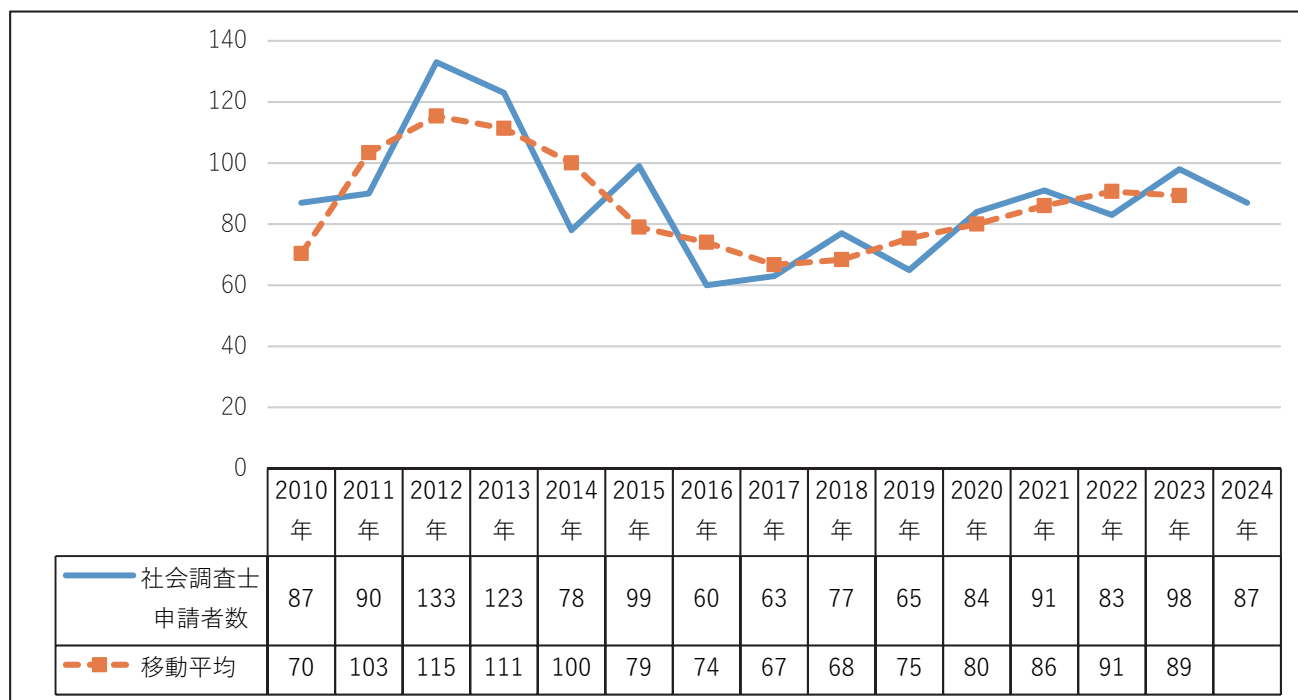
専門社会調査士 資格申請者数：1 名（2023 年 3 月申請分）

社会調査士（キャンディデイト）資格取得者数：101 名（春学期 55 名・秋学期 46 名）

（2024 年 3 月 31 日時点）

◆ 本学における社会調査士資格ならびにキャンディデイト資格申請の推移

【社会調査士申請者数の推移（2024 年 3 月）】

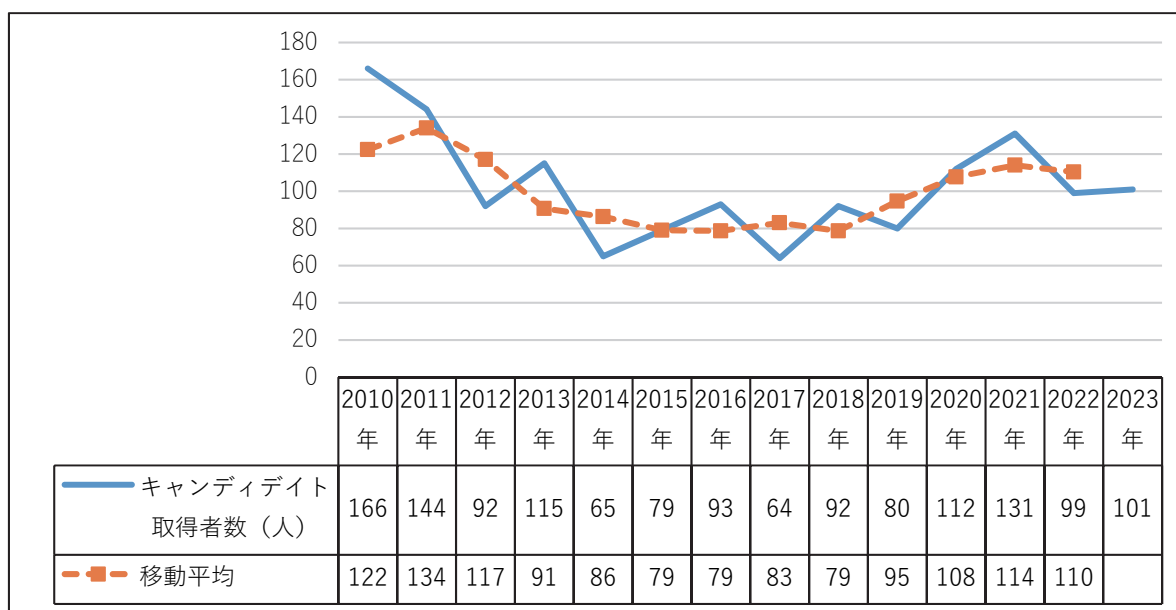


【学部学科別社会調査士・専門社会調査士申請者数（2024 年 3 月）】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ 福祉学部 コミュニティ 政策学科	観光学部	現代心理学部	合計	大学院		合計
	現代文化 学科	社会学科	メディア 社会学科					心理学科		社会学研究科	コミュニティ 福祉学研究科	
2024年春 (本申請)	8	15	6	6	4	17	0	31	87	0	1	1

上記のグラフは、2010 年度から 2023 年度までの、社会調査士の申請者数の推移、移動平均を示したものである。また、2023 年度学部学科別の社会調査士、および専門社会調査士の申請者数は上記表のとおりである。

【社会調査士（キャンディデイト）取得者数の推移】



本学における社会調査士資格のキャンディデイト申請者数は、上記の表のとおり推移している。2010年度に、教務事務センターより窓口業務が移管され、社会情報教育研究センターでの申請受付が始まった。2023年度のキャンディデイト申請者数は101名で、前年度に比べると2名の増加となった。

【2023年度学部学科別 社会調査士（キャンディデイト）取得者数】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	観光学部	現代心理学部 心理学科	合計
	社会学科	メディア 社会学科	現代文化 学科						
2023年10月認定者数 （春学期申請）	4	4	4	5	0	3	0	35	55
2023年12月認定者数 （秋学期申請）	6	2	2	8	2	16	0	10	46
合計	10	6	6	13	2	19	0	45	101

上記の表は、2023年度の学部学科別の社会調査士（キャンディデイト）取得者数を示している。社会学部では、他学部に比べて社会調査士科目を取得しやすいカリキュラム設計がなされているため、毎年一定数の学生が申請に訪れている。一方、コミュニティ福祉学部や現代心理学部でも学生の関心が高く、特に現代心理学部においては、授業内で積極的に告知したため、学生の資格の認知度を高めることができ、学生の資格取得につながったと考えられる。

〈科目申請〉

2023年度も、2022年度に引き続き Google ドライブを活用して、各学部・学科・研究科への説明書類の配布、及び各学部から申請科目の情報収集を行った。また、2012年度からの社会学部の連絡責任者との打ち合わせは今年度も Zoom を用いて行い、スムーズに事を進めることができた。2023年度は資格取得対応カリキュラムを導入する全学部・学科・研究科合計で115科目の認定を受けた。また2024年度の対応科目として130科目（※事務局）の申請手続を2023年12月に行い、2024年3月に130科目の認定を社会調査協会より受けた。

2) 統計検定

一般財団法人統計質保証推進協会主催による 2023 年度の統計検定は 11 月に実施された。ただし、学内での特設会場受験は実施していない。統計検定は、文部科学省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施された試験であり、統計教育の質保証との関連で位置づけられる。社会情報教育研究センターでは 2011 年度より受験の案内から統計検定対策セミナー開催に至るまで、統計検定受験者に対する一元的な支援を行っている。

4 教育支援事業

1) 正課科目の開発・提供

2023 年度も引き続き全学共通カリキュラムのオンデマンド授業「社会調査入門」・「社会調査の技法」・「データ分析入門」・「データの科学」・「多変量解析入門」・「Introduction to Statistics1」・「Introduction to Statistics2」・『Introduction to the Social Survey』・『Introduction to Multivariate Analysis』の運営を行った。なお、これら 9 科目は社会調査士資格認定科目となっている。

◆社会調査入門

【担当者】 池田 岳大（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 御手洗 由佳（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】 208 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to the social survey

【担当者】 池田 岳大（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 御手洗 由佳（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】 76 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆社会調査の技法

【担当者】 渡辺 健太郎（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 なし

【授業の目標】 社会調査の技法的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査士資格認定科目「B」に対応。

【受講者数】 206 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データ分析入門

【担当者】 渡辺 健太郎（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 なし

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 209 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Statistics 1

【担当 者】 山口 和範（経営学部 教授）、ドイ・ジミー（立教大学 兼任講師）

【教育コーチ】 なし

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 200 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆データの科学

【担当 者】 渡辺 健太郎（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 なし

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】 204 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Statistics 2

【担当 者】 山口 和範（経営学部 教授）、ドイ・ジミー（立教大学 兼任講師）

【教育コーチ】 なし

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】 206 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆多変量解析入門

【担当 者】 小野原 彩香（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 香川 涼亮（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講者数】 202 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

◆Introduction to Multivariate Analysis

【担当 者】 小野原 彩香（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 香川 涼亮（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講者数】 34 名

授業内容はシラバスを参照のこと。

2) 各種コンテンツの開発および改修

◆R教材の開発、公開

2022 年度から引き続き R の教材を作成し、2023 年度には「R 統計解析（基本操作コース）」、「R 統計解析（基本操作コース 2）」、「R 統計解析（多変量解析コース 1）」、「R 統計解析（多変量解析コース 2）」を LMS のセルフラーニングにおいて公開した。また、上記教材をベースとして、VOICEPEAK による自動音声の調整作業や教材の追加等を行った。完成したオンデマンド R 教材については、2024 年度中に Canvas LMS 上で公開する予定である。

5 研究支援事業

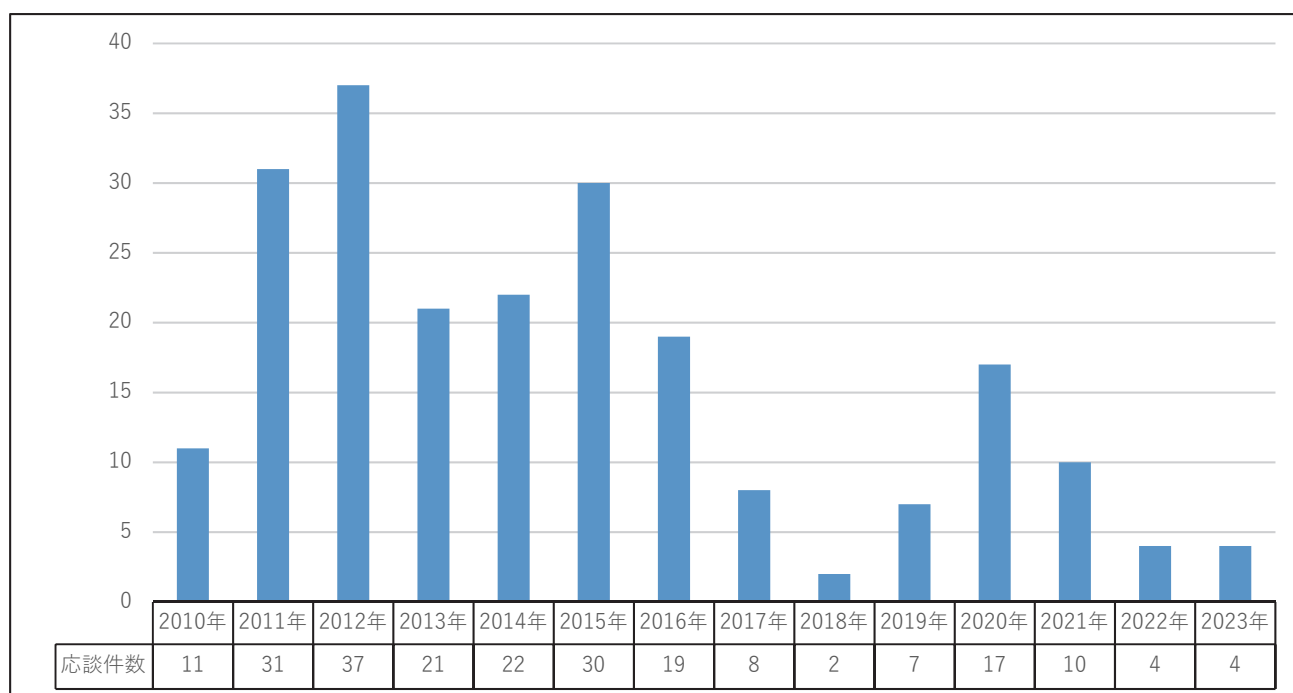
1) 調査研究コンサルティング

社会情報教育研究センターでは、立教大学の大学院学生や教職員を対象に調査研究に関するコンサルティングを行っている。主な相談内容は、学内アンケートや社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計分析に関する相談である。多くは一回にとどまらず、その後の調査経過も含めて継続的なコンサルティングとなっている。

2023年度のコンサルティング応談件数は4件であった。教員からの依頼が1件、院生からの依頼が3件であり、それぞれコミュニティ福祉学部・研究科、ビジネスデザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科だった。

【2023年度社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数】	件数
コミュニティ福祉学部・研究科	1
ビジネスデザイン研究科	2
異文化コミュニケーション研究科	1
総計	4

【社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数 年度別推移】



2) 対外連携活動

◆社会調査協会

一般社団法人社会調査協会と連携し、同協会が実施する S 1 科目、S 2 科目などの講習会事業の開催協力を行ってきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行以降は対面での講習会は中止され、2022 年度からオンライン開催がメインとなった。2023 年度もオンラインでの開催となったため、対面を前提とした開催協力は行わなかった。

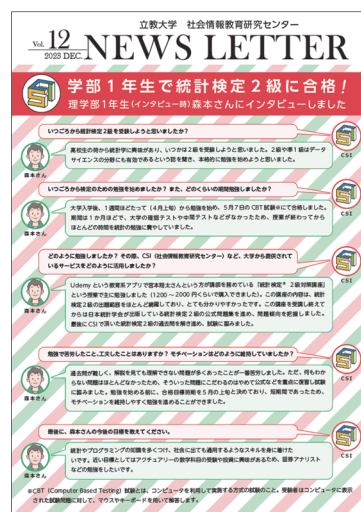
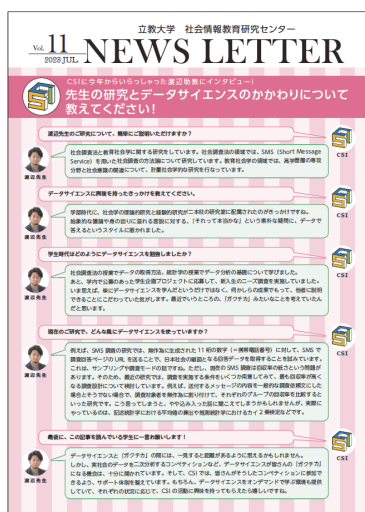
◆ICPSR（本部および国内利用協議会）

ICPSR（Inter-university Consortium for Political and Social Research：政治・社会調査のための大学間コンソーシアム、本部：ミシガン大学 社会調査研究所）は、社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集・保存し、それらを学術目的での二次分析のために提供する世界最大級のデータアーカイブである。立教大学は、国内利用協議会（ハブ機関：東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター）を通じて加盟している ICPSR の会員機関である。

社会情報教育研究センターでは、2023 年度も ICPSR のデータアーカイブ機能の利用についての学内広報、およびサマープログラムの学内告知を行った。ICPSR 本部によるサマープログラムは現地参加とオンラインのハイブリッド形式となったが、本大学からの参加者はなかった。また、毎年 ICPSR 国内利用協議会が実施する国内統計セミナーについては、2021 年度以降オンライン形式での開催となっており、2023 年度もオンラインでの実施となった。

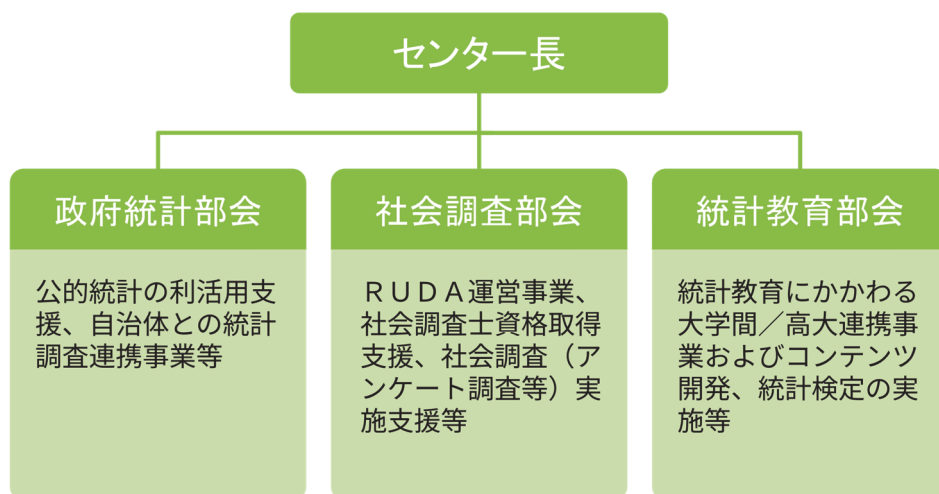
6 出版物

- 『日本の公的統計・統計調査 第3版』
- 社会情報教育研究センター研究紀要『社会と統計』（第10号）
- NEWS LETTER (Vol. 11、 Vol. 12)



7 組織図および構成メンバー

社会情報教育研究センターの組織図は以下の通りである。



■センター長

砂川 浩慶（社会学部 教授）

《政府統計部会》（2024年3月時点）

■部会リーダー

櫻本 健（経済学部 准教授）

■部会メンバー

安藤 道人（経済学部 准教授）

小野原 彩香（社会情報教育研究センター 助教）

香川 涼亮（社会情報教育研究センター 助教）

榎原 光士（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

則竹 悟宇（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

■研究協力者

濱本 真一（日本大学文理学部社会学科 准教授）

菊地 進（立教大学 名誉教授、立教学院 常任監事）

藤野 裕（富山短期大学 准教授）

小西 純（（公財）統計情報研究開発センター 主任研究員）

倉田 知秋（環太平洋大学経営学部現代経営学科 講師）

西林 勝吾（立正大学地域創生学部地域創生学科 専任講師）

藤井 英明（立教大学経済研究所客員研究員）

銅金 遼人（社会情報教育研究センター 学生アルバイト）

吉田 翼（社会情報教育研究センター 学生アルバイト）

《社会調査部会》(2024 年 3 月時点)

■部会リーダー

片上 平二郎 (社会学部 准教授)

■部会メンバー

水上 徹男 (社会学部 教授)

高木 恒一 (社会学部 教授)

中澤 渉 (社会学部 教授)

川畑 泰子 (社会学部 准教授)

池田 岳大 (社会情報教育研究センター 助教)

御手洗 由佳 (社会情報教育研究センター 助教)

小松 恵 (社会情報教育研究センター リサーチアシスタント)

宮澤 篤史 (社会情報教育研究センター リサーチアシスタント)

山中 惇史 (社会情報教育研究センター リサーチアシスタント)

《統計教育部会》(2024 年 3 月時点)

■部会リーダー

山口 和範 (経営学部 教授)

■部会メンバー

田中 聡 (経営学部 准教授)

渡辺 健太郎 (社会情報教育研究センター 助教)

《社会情報教育研究センター事務局》(2023 年度中)

小川 龍秀 (情報企画室 課長)

木田 英樹 (情報企画室 課長補佐)

兼築 弥和 (情報企画室 課員)

藤谷 貴樹 (情報企画室 課員)

佐藤 裕亮 (社会情報教育研究センター 教育研究コーディネーター)

前川 志津 (社会情報教育研究センター 教育研究コーディネーター)

笹沼 みずほ (社会情報教育研究センター事務局)

鈴木 美和 (社会情報教育研究センター事務局)

駒澤 乃理子 (社会情報教育研究センター事務局)

旭泉 阿咲子 (社会情報教育研究センター事務局)

